

市長とのおしゃべり会 会議録

日 時	令和7年8月23日（土）10時～11時	
場 所	へきなん福祉センターあいくる デイルーム2	
出席者	人数	8人
	碧南市	小池市長、危機管理課長
テーマ	防災対策（自助・共助）について	

要旨

災害時の市の被害予測や、自助・共助・公助の役割や連携の大切さについて市長から資料による説明をした後、意見交換を行った。

主な意見は以下の通り

- ・アパート在住だが、隣人がどの程度防災対策をしているかが不明。どこまで声をかけ入り込んでいいかわからない。得た知識を家族や周囲に伝えることを意識している。
- ・町内会の加入が年々減っている。つながりがなくなっていることを実感。
- ・知的障害の子への手助けは、荷物を持つなどの間接的な手助けが可能だと思う。
- ・近隣の高齢化が進んでいるため、有事の際に不安。
- ・従業員の6割が市外在住。会社でも備えているが、インフラの復興には時間がかかる。その場合帰宅困難者を避難所へ案内できるのか。
→避難所は誰のものでもない。
- ・地域への勤労も義務だと思う。1人でできることは限られるが、周囲と協力するとできることは増える。共助につながる活動が大切。できる範囲で継続していきたい。
- ・習慣化と意識付が大切。子どもの教育が重要。家族でも日ごろから話し合う。
- ・町内会長は手一杯のため、町内会を助ける人、仕組みをつくることで町内会への加入者も増えるのではないかと。加入のメリットを積極的に周知できると良い。
- ・防災意識を持つだけでも助かる人は増える。増やす流れを作っていけると良い。
- ・健常者だけでなく様々な立場や状況の人が参加する防災訓練ができると良い。
- ・市内には様々なボランティア団体があるが、横の連携が進んでいない。自分たちでそういう機会を作っていけないと感じる。
- ・キャンプ用品を所有しているため自助は可能。近所に実家があるため連携して避難したい。近隣では一番新しく越してきたが、もともといた方から声掛けしてもらえるとありがたい。自分も新しい世帯が来た時は声かけしたい。・災害時に数件であれば声かけできると思う。全員が周囲だけでも助けるようになると良いのではないかと。

（市長総括）

- ・防災意識を持つ人が1人でも多く増えるように行動し続けることが大切。